

《原著》

待機的冠動脈インターベンション患者の自己効力感による QOL 関連程度の検討

森脇 佳美¹⁾, 小寺 直美²⁾, 山田 智恵³⁾, 中神 友子¹⁾, 竹松 百合子⁴⁾,
長谷部 ゆかり⁵⁾, 杉本 郁子⁶⁾, 篠田 耕造⁶⁾, 古林 晃⁶⁾, 加藤 小代子⁶⁾, 柴山 健三⁷⁾

¹⁾ 相山女学園大学看護学部, ²⁾ 四日市看護医療大学, ³⁾ 藤田保健衛生大学 医療科学部看護学科,

⁴⁾ 藤田保健衛生大学大学院 保健学研究科, ⁵⁾ 元 聖泉大学看護学部看護学科,

⁶⁾ 岐阜ハートセンター看護部, ⁷⁾ 愛知医科大学看護学部

要 旨

【目的】待機的冠動脈インターベンション (PCI) 治療後12から24か月経過した虚血性心疾患患者 (n = 340) の健康関連QOL (QOL) と自己効力感 (Self-Efficacy: SE) を調査し、QOLとSEの関連を評価することを目的とした。【方法】QOL測定はSF-36、SEは一般性セルフ・エフィカシー尺度 (GSES) を使用し、郵送法で調査した。【結果】SF-36サマリースコアのうち、精神的健康度 (mental component summary: MCS) がSEと関連していたが、身体的健康度 (PCS) は関連していなかった。【結論】本研究対象患者のSEは、QOLのうちMCSの関連要因となることが示唆された。

キーワード：経皮的冠動脈インターベンション (PCI), QOL, SF-36, 自己効力感